

鳥取県障がい者プラン

(鳥取県障がい者による文化芸術活動推進計画
部分のみ抜粋)

【鳥取県障がい者プラン（抜粋）】

IV 鳥取県の課題

8. 文化・芸術活動（「鳥取県障がい者による文化芸術活動推進計画（第2期）」）

【現状と課題】

本県では、平成26年度に開催し、障がいのある人の社会参加意識の向上や障がい理解の促進など大きな成果を生んだ「第14回全国障がい者芸術・文化祭とっとり大会」や、平成28年に発足した障がい者の芸術文化活動推進知事連盟のキックオフイベントとして開催した「東京オリンピック・パラリンピックに向けた障がい者アートフェスタ2016」などを契機として広がった障がいのある人の文化芸術活動の推進に向けた取組を更に発展させるため、障害者による文化芸術活動の推進に関する法律（平成30年法律第47号。以下「障害者文化芸術推進法」という。）第8条第1項の規定に基づき、平成30年10月に「鳥取県障がい者による文化芸術活動推進計画」（以下「第1期計画」という。）を策定しました。

障がいのある人の文化芸術活動拠点「あいサポート・アートセンター」（以下「アートセンター」という。）の設置（平成30年度）をはじめ、「日本博を契機とした障がい者の文化芸術フェスティバル in 中国・四国ブロック」の開催（令和2年度）、障がいのある人の文化芸術作品に特化したバーチャル美術館「鳥取県立バリアフリー美術館」の創設（令和4年度）など、これまでの取組により、障がいのある人の文化芸術活動を推進するための環境づくりは着実に進んでおり、県内の障がいのある人が創造する美術作品や公演等の中には、全国的に高い評価を受け、県内外へ幅広い発信力を持つものも生まれています。

一方で、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大により、文化芸術活動の鑑賞機会や発表機会が失われるなど、大きな影響を受けました。また、福祉施設等における芸術文化活動に関するノウハウの共有や指導者の確保、障がいのある人の芸術文化活動に関わる人（支援者や鑑賞者等）の裾野拡大、公演等における合理的配慮の推進による文化芸術へのアクセシビリティの向上、並びにこれらの課題に対応するための福祉施設や文化芸術施設等をはじめとした関係団体・機関等との連携強化など、様々な課題も存在しています。

（第2期計画において目指す姿）

本来、文化芸術は、障がいの有無にかかわらず、誰もが対等に享受・創造する権利があり、その作品等は、芸術上の価値に応じて適切に評価され、取り扱われるべきものですが、現状では障壁や制限、それによる負担も生じているため、これらを解消し、障がいのある人とない人が共に参加し、楽しめるようにするための具体的な対応が必要となっています。

障がいのある人による文化芸術活動の推進は、現在生じている文化芸術活動への参加

や創造における物理的・心理的障壁を取り除き、誰もが多様な選択肢を持ち得る社会を構築するためのものであり、文化芸術活動全般の推進や向上に貢献し、社会に新しい価値の提案をもたらすと同時に、共生社会の実現に寄与するものです。また、一人一人の多様な幸せであり、社会全体の幸せでもあるウェルビーイング（Well-being）の理念の実現にとっても重要な意義を持っています。

第2期計画の期間においては、第1期計画における取組の成果や課題等を踏まえつつ、東京オリンピック・パラリンピックのレガシーを受け継ぎ、2025年の大阪・関西万博やその後の更なる発展も見通して取組を推進することが重要となります。

障害者文化芸術推進法の理念を踏まえ、あいサポート条例で示した考え方を具体化するため、引き続き、障がいのある人が文化芸術を鑑賞し、これに参加し、又はこれを創造する活動を促進するとともに、障がいの有無にかかわらず文化芸術を通じて共に交流する機会を創出することで、障がい理解を深め、共に、お互いの人格と個性を認め合いながら生き生きと暮らしていける社会の実現に向け、県民のみなさんと一緒に推進していきます。

（推進体制）

県、市町村、障がい福祉関係団体等で一丸となって、アートセンターと共に、次の(1)～(7)に示す取組により、障がいのある人の文化芸術活動を推進していきます。

（推進方針）

(1) 文化芸術の鑑賞の機会の拡大（法第9条関係）

文化芸術は、人々の創造性を育み、その表現力を高めるとともに、人々の心のつながりや相互理解、多様性を受け入れることができる心豊かな社会を形成するものであり、文化芸術はそれ自体が固有の意義と価値を有し、特に本物の文化芸術の鑑賞は、豊かな人間性や創造性を涵養し、感動や共感、心身の健康など、人々に多様な恩恵をもたらすものであることから、障がいの有無にかかわらず、文化芸術に触れ、鑑賞する機会を拡大することが重要です。

<今後の取組の方向性>

- 文化芸術の公演等において、ロービジョンを含む視覚に障がいのある人等に対してはプログラムやパンフレットの音声コード化や音声ガイドの導入、対話による共同鑑賞等に、聴覚に障がいのある人に対しては手話通訳や要約筆記の設置等に取り組むとともに、視覚や聴覚に障がいのある人等が映画を楽しむことができるよう、バリアフリー映画の普及に取り組めます。また、知的障がい・発達障がいのある人やその家族も参加しやすい公演の開催を促進するなど、障がい特性にかかわらず、障がいのある人等が文化芸術に親しめる環境づくりを進めます。
- 読書バリアフリー法の趣旨に基づいて、点字図書館や県立図書館等において、アクセシブルな書籍等を貸し出すとともに、聴覚障がい者センターにおける字幕入りDVDの貸出により、ロービジョンを含む視覚障がい者等、聴覚障がい者が日常的

に文化・芸術に親しめる環境づくりを進めます。

- 障がいのある人が文化芸術施設等を円滑に利用できるように、公共の文化芸術施設等のバリアフリー化を推進するとともに、「鳥取県福祉のまちづくり推進事業補助金」等により、民間の文化芸術施設等の構造及び設備の整備を進めます。また、文化芸術施設等と連携し、公演等における情報保障をはじめとした鑑賞サポートの充実を図ります。
- 鳥取県障がい者舞台芸術祭「あいサポート・アートとっとり祭」（以下「とっとり祭」という。）、鳥取県障がい者芸術・文化作品展「あいサポート・アートとっとり展」（以下「とっとり展」という。）、「障がいのある人とない人が共につくる劇団『じゆう劇場』による公演」等の開催により、障がいの有無にかかわらず文化芸術を共に楽しみ、県民の障がいへの理解を進めるための環境づくりを進めます。
- 手話パフォーマンス甲子園を含む手話フェス等では、大型モニターでの手話通訳や要約筆記の一体表示や音声ガイドの導入をはじめとする、情報保障の充実を図り、文化芸術活動を鑑賞しやすい環境を整備します。
- インターネット上のバーチャル美術館「鳥取県立バリアフリー美術館」の運営や「とっとり祭」等のオンライン配信など、デジタル技術を活用した文化芸術へのアクセシビリティ向上を進めます。

(2) 文化芸術の創造の機会の拡大（法第 10 条関係）

文化芸術は、活発で意欲的な創造活動により生み出されるものであることを踏まえ、障がいの有無にかかわらず、文化芸術を行う者の創造性が十分に発揮されるとともに、その地位の向上が図られ、その能力を十分に発揮されるよう、文化芸術活動を創造する機会を拡大することが重要です。

<今後の取組の方向性>

- 「鳥取県障がい者アート活動支援事業補助金（以下「アート補助金」という。）（文化芸術活動促進事業）」により、社会福祉施設、学校等において障がいのある人が取り組む文化芸術活動を支援し、障がいのある人が必要な支援を受けつつ、より幅広い分野の文化芸術を創造することができる環境の整備を進めます。
- アートセンターを中心に、福祉施設等へのスタートアップ支援（アート補助金の活用促進、企画支援、出張ワークショップ等）を行い、障がいのある人による文化芸術活動の裾野を拡大します。
- 幅広い分野の参加体験（ワークショップなど）を行うことで、これまで文化芸術活動に取り組んできた障がいのある人もこれから新たに文化芸術活動に取り組む障がいのある人も、幅広い分野の選択肢の中から自分に合った分野に取り組むことができるよう支援します。

(3) 文化芸術の作品等の発表の機会の確保（法第 11 条関係）

自らが創造した文化芸術の作品等を多くの人に見てもらうことは、文化芸術活動を行う者の生きがいにつながり、また、その功績が社会から評価され、一層尊敬、尊重されることで更なる文化芸術の発展へつながるような、持続可能性のある社会を築くことが必要であることから、障がいのある人による文化芸術の作品等の発表の機会を確保することが重要です。

<今後の取組の方向性>

- 「とっとり祭」「とっとり展」を開催し、障がいのある人の作品等の発表機会を確保します。
 - アート補助金（個展等開催事業）により、障がいのある人の文化芸術の作品等を発表する機会の創出を進めます。
 - 本県の障がい者文化芸術の発信や水準向上、共生社会の実現に向けた牽引力となることが期待される優れた文化芸術活動を支援します。
 - 障がい者アートを積極的に展示する「鳥取県はひとふるアートギャラリー」の認定を促進し、県民が気軽に障がい者アートを楽しむ機会を創出します。
 - 国や障がいのある人の文化芸術を通じた国際交流事業を実施する団体等と連携し、又は本県の国際交流事業を活用し、障がいのある人の優れた文化芸術活動の成果を海外に発信します。
 - 障がいのある人の文化芸術活動の取組等について、インターネットや県広報物等で情報発信していますが、県民へ充分浸透しているとは言いきれないことから、より多くの方に障がいのある人の優れた芸術作品に触れていただき、障がいのある人による文化芸術への理解を深めるため、更なる情報発信を実施します。
 - 令和7年に開館予定の鳥取県立美術館をはじめとした文化芸術施設や企業等との連携、県・市町村等が行う様々な催しとの連携を更に進め、県内各地域における発表機会の拡大を図ります。
 - 2025年大阪・関西万博を、障がいのある人による文化芸術を含めた、本県の文化芸術による共生社会の実現に向けた取組を積極的に発信する機会とします。
- ### (4) 作品等の評価、販売、権利保護等の推進、相談体制の整備（法第 12 条～14 条、16 条関係）

自らの作品等が適切に評価され、その評価に見合った適切な取扱いが受けられることは、障がいの有無にかかわらず、当然の権利であり、著作者の権利及びこれに隣接する権利は、思想又は感情の創作的な表現物である著作物等の<創作－流通－利用>のサイクルの維持・発展を担う法的なインフラとして、文化芸術の振興の基盤をなすものです。このため、作品等の実情の調査及び専門的な評価、芸術上価値の高い作品等

の適切な記録及び保存、販売等の支援、並びに所有権、著作権その他の権利の保護を図るとともに、文化芸術活動についての相談体制を整備し、障がいのある人やその支援者をサポートすることが重要です。

また、評価の高い作品等を創作する障がいのある人については、その才能を伸ばすとともに、その活動が持続可能なものとなるよう、作品等の販売ルートの紹介・開拓や所有権、著作権その他の権利の保護等について支援することが重要です。

<今後の取組の方向性>

- アートセンターを中心に、障がいのある人の作品等についての実情を調査し、優れた作品をデジタルアーカイブ化するとともに、アートセンターが行う作品展示や、「鳥取県はひとふるアートギャラリー」、インターネット上に常設している鳥取県立バリアフリー美術館で紹介します。
- 「とっとり展」で、障がいのある人の文化芸術作品を募り、県が設置する審査会において芸術上価値が高い作品を審査・表彰することにより、作品を専門的な見地から評価する機会を設けます。
- アートセンターを中心に、障がい福祉サービス事業所の職員、文化芸術関係者等を対象に、芸術上価値の高い作品等の適切な記録、保存方法、販売等の支援、及び所有権、著作権その他の権利の保護等について学ぶ研修会を開催するとともに、当該研修会の開催について更なる周知と内容の充実を図り、支援の質の向上を図ります。
- 評価の高い作品等を創作する障がいのある人については、必要に応じて、作品等の適切な記録、保存方法、販売等の支援や所有権、著作権その他の権利の保護等について指導・助言ができる専門家を招聘するなど、支援体制を整備します。
- アートセンターを中心に、積極的な訪問による対応を含め、障がいのある人の文化芸術活動全般についての相談を受け付け、アドバイスを行うとともに、必要に応じて専門家や関係機関の紹介を行います。また、必要な支援が、福祉施設等へ所属していない人も含めて幅広く届くよう、アートセンターの認知度向上を図ります。
- 障がいのある人による芸術文化活動が多様な経済活動へとつながるよう、企業等と連携して取り組みます。

(5) 文化芸術活動を通じた交流の促進（法第 15 条関係）

文化芸術活動を通し、障がいの有無にかかわらず住民が心豊かに暮らすことができる住みよい地域社会を実現するために、文化芸術活動を通じた交流の促進が重要です。

<今後の取組の方向性>

- 参加体験（ワークショップなど）の機会を提供し、障がいの有無にかかわらず共

に文化・芸術活動を行い相互に交流する場を提供します。

- 特別支援学校の取組を支援する「共生社会をめざす文化芸術・スポーツ活動推進事業」等により、文化芸術活動を通じて、特別支援学校の生徒等と、他の学校の生徒等との交流を支援します。
- 学校への訪問公演等により、子どもの頃から、障がいのある人による文化芸術活動に触れる機会や、障がいのある人と交流する機会を広げます。
- 国や障がい者の文化芸術を通じた国際交流事業を実施する団体等と連携し、又は、本県の国際交流事業を活用し、文化芸術に係る国際的な催しへの障がい者の参加を進めます。
- 障がいのある人が、文化芸術活動を通じて、子どもや高齢者、幅広い活動分野の人たちと共に文化芸術活動を行い、交流する機会の創出を支援することで、障がいのある人の社会参加の推進及び障がいや障がいのある人に対する理解を進めます。

(6) 人材の育成（第 17 条関係）

(1)～(5)の取組を進めていくため、障がいのある人による文化芸術活動の推進に寄与する人材の育成が重要です。

<今後の取組の方向性>

- アートセンターを中心に、障がい福祉サービス事業所の職員、文化芸術関係者等を対象に、芸術上価値の高い作品等の適切な記録、保存方法、販売の支援、及び所有権、著作権その他の権利の保護、鑑賞サポート等について学ぶ研修会を開催します。また、研修の開催にあたっては、オンラインでの参加も可能とするなど、参加しやすい環境を整え、受講機会の拡大を図ります。
- アートセンターで開催する、障がい福祉サービス事業所の職員等を対象とした美術や舞台芸術等の幅広い分野の参加体験（ワークショップなど）により、新たな分野の芸術文化活動を学ぶ機会を提供します。
- 障がいのある人の芸術文化活動には、自己肯定感の向上やコミュニケーション能力の拡大といった効果があるとともに、その作品の中には高い評価を受け、既存の文化芸術に対して新たな価値観を投げかけるものも多く存在することについて、身近な支援者であるご家族や福祉施設の職員等への理解促進を図ります。
- 障がいのある人の文化芸術活動を支援する県内アート人材等のリスト化やネットワークづくりを進めます。

(7) 関係者（国・地方公共団体、関係団体、大学、産業界等）の連携協力（第 19 条関係）

(1)～(6)の取組を円滑かつ効果的に推進するため、関係者の連携協力に取り組むことが重要です。

<今後の取組の方向性>

- 県内の障がい福祉関係団体、文化芸術関係団体、障がい福祉サービス事業所、行政機関等で構成する「鳥取県障がい者・芸術文化活動推進委員会」において、本県の障がいのある人の文化芸術活動の推進のための施策を審議し、構成委員相互で連携していきます。
- 2025年大阪・関西万博やその後の更なる発展も見通して、47都道府県が加盟する「共生社会の実現を目指す障がい者の芸術文化活動推進知事連盟」を中心に、障がいのある人の文化芸術活動を促進する取組を、他の都道府県と連携して展開します。

VII 計画の数値目標・見込量等

4 その他の数値目標

(1)教育、文化芸術活動・スポーツ等

項目	数値	
	アート活動取組団体数（団体）	現状
	目標	70 団体（R11 年度）
あいサポート・アートとっとり祭出演団体数（団体）	現状	21 団体（R4 年度）
	目標	35 団体（R11 年度）
あいサポート・アートとっとり祭来場者満足度（％）	現状	85％（R4 年度）
	目標	90％（R11 年度）
あいサポート・アートとっとり展県内出展数（点）	現状	439 点（R4 年度）
	目標	520 点（R11 年度）
あいサポート・アートとっとり展来場者満足度（％）	現状	92％（R4 年度）
	目標	90％（R11 年度）
個展等開催数（件）	現状	31 件（R4 年度）
	目標	45 件（R11 年度）
「鳥取県はーとふるアートギャラリー」認定ギャラリー数（件）	現状	4 件（R4 年度）
	目標	7 件（R11 年度）
アートセンターが開催する研修会・ワークショップの開催数（創作活動に関するもの、作品等の適切な保存や販売・著作権その他の権利保護に関するもの、鑑賞サポートに関するもの）	現状	1 回（R4 年度）
	目標	3 回（R11 年度）
鳥取県立バリアフリー美術館アーカイブ登録作品数	現状	－
	目標	30 作品（R11 年度）